

オープンアクセスとは

2023年11月30日

SALA研修会

特定非営利活動法人 UniBio Press

尾城 孝一



自己紹介

略歴

- 名古屋大学附属図書館 (1983.1～1988.4)
- 東京工業大学附属図書館 (1988.5～2000.3)
- 国立国会図書館 (2000.4～2002.3)
- 千葉大学附属図書館 (2002.4～2005.3)
- 国立情報学研究所 (2005.4～2009.3)
- 東京大学附属図書館 (2009.4～2011.3)
- 大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) 事務局 (2011.4～2012.3)
- 国立情報学研究所 (2012.4～2015.3)
- 東京大学附属図書館 (2015.4～2017.3)
- 国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター (2017.4～2022.3)
- 慶應義塾文学部非常勤講師 (2020.10～2022.3)
- UniBio Press (2022.4～)

UniBio Press

日本の生物系学協会誌が刊行する学術論文誌を電子ジャーナルとして集合的に国内外の研究機関に提供する特定非営利活動法人

UniBio Press参画誌（現在5誌）

- Current Herpetology（日本爬虫両棲類学会）
- Mammal Study（日本哺乳類学会）
- Ornithological Science（日本鳥学会）
- Paleontological Research（日本古生物学会）
- Zoological Science（日本動物学会）

成果

- 電子ジャーナル出版のための財政支援の確立（BioOneからの購読料分配金による）
- 国際的認知度の向上（参画誌5誌全てがIFを獲得）
- 啓発・広報活動（セミナー「学術出版を学ぶ」を29回開催）

沿革

2004年 UniBio Press設立（国立情報学研究所のSPARC Japan事業による支援）

2005年 J-STAGEから電子ジャーナルを提供

2007年 プラットフォームをBioOne（国際的な生物学系電子ジャーナルプラットフォーム）に移す

2012年 国内機関向けにPierOnlineから電子ジャーナルを提供

今後の展望

- オープンアクセスへの移行
 - 国、研究資金配分機関、大学等によるOA義務化が進む
 - BioOneも2026年からOAへ転換予定
- 事業拡大とそれに伴う持続可能な財政基盤の確立
 - 生物学系以外の学会も含めた学術出版支援
 - 会費制組織への転換

学術雑誌関連の活動

- 名大時代（1983.1～1988.4）
 - 外国雑誌の一括契約
- 東工大時代（1988.5～2000.3）
 - 理工学分野の外国雑誌センター
 - 外資系取次店（Swets）の導入
- 千葉大学時代（2002.4～2005.3）
 - 国大図協電子ジャーナル・タスクフォースのメンバー
 - CURATORの創設
- NII時代（2005.4～2009.3）
 - 機関リポジトリ委託事業の開始
 - SPARC Japan
- 東大時代（2009.4～2011.3）
 - 国大図協学術情報流通改革検討特別委員会の事務局
 - 学術会議の提言
 - 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）の立ち上げ準備
- JUSTICE時代（2011.4～2012.3）
 - JUSTICE事務局長
- 東大時代（2015.4～2017.3）
 - JUSTICE運営委員会委員長
- NII/RCOS時代（2017.4～2022.3）
 - 研究データ管理
- UniBio Press（2022.4～）
 - 参画学会誌の電子出版支援など

OAとは

オープンアクセスとは

"Open access (OA) is a set of principles and a range of practices through which research outputs are distributed online, free of access charges or other barriers."

「オープンアクセス（OA）とは、研究成果を、費用やその他のアクセス障壁なしに、オンラインで配布するための一連の原則であり、さまざまな実践である」

https://en.wikipedia.org/wiki/Open_access

オープンアクセスとパブリックアクセス

オープンアクセス

- 無料でアクセスできる
- 自由に再利用できる（再利用ライセンスを持つ、ccライセンス等）
- *Libre access*

パブリックアクセス

- 無料でアクセスできる
- 勝手に再利用できない（再利用ライセンスを持たない）
- *Gratis access or Free access*

OAの背景

1. 学術研究の推進
2. 雑誌の危機
3. 納税者の権利

OAのレーツ

1991	GinspargによるLANL preprint archive開始（→コーネル大学のarXiv.org）
1994	Harnadによるセルフ・アーカイビングの提唱「転覆計画」
1998	ARL（北米研究図書館協会）がSPARC開始
1999	VarmusのE-biomed提案（→PubMed Central）
2000	BioMed Central社（オープンアクセス出版社）OAジャーナルの刊行開始
2001	PLoS（Public Library of Science）発足
2002	Budapest Open Access Initiative（BOAIブダペスト宣言）

OAのタイプ

OAのタイプ（論文レベル）

ゴールド	<ul style="list-style-type: none"> • 出版社のプラットフォームで • 著者によって、または著者に代わって支払われるOA論文出版料（APC）、またはジャーナル全体のビジネスモデルにより、即時公開
グリーン	<ul style="list-style-type: none"> • オープンナリポジトリあるいはウェブ上で • エンバーゴ（一定期間の公開禁止措置）の対象となる場合がある
ブロンズ	<ul style="list-style-type: none"> • 出版社のプラットフォームで • 出版社の方針または慣行によって無料でアクセスできる（パブリックアクセス） • 一時的な場合もあれば継続的な場合もある

論文のバージョン

□ プレプリント

- 査読前の論文原稿

グリーン

□ AM (Accepted Manuscript)

- 査読を通過し、ジャーナルに受理された原稿
- 著者最終稿

グリーン

□ VoR (Version of Record)

- ジャーナルに掲載された学術の記録のバージョン
(整形、校正済)
- 出版者版

ゴールド

グリーン

ブロンズ

参考：

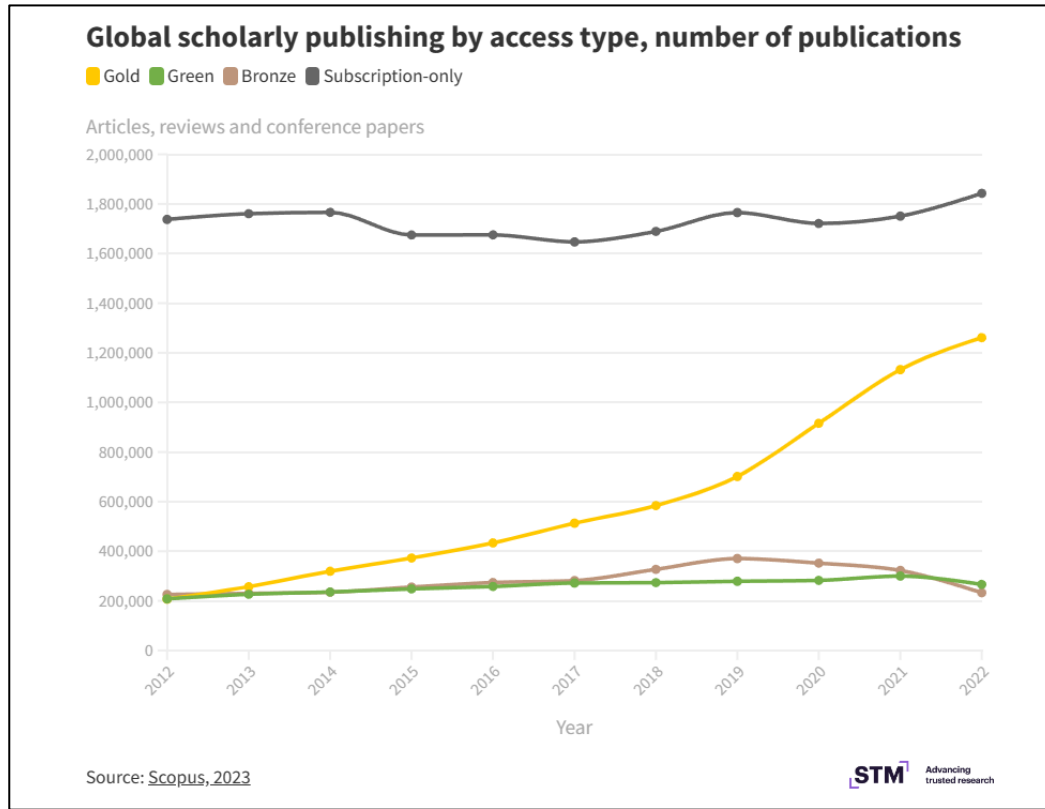
Journal Article Versions (JAV): Recommendations of the NISO/ALPSP JAV Technical Working Group
<http://www.niso.org/publications/rp/RP-8-2008.pdf>

タイプの組み合わせ

ある論文は一つもしくは複数のタイプで利用できる

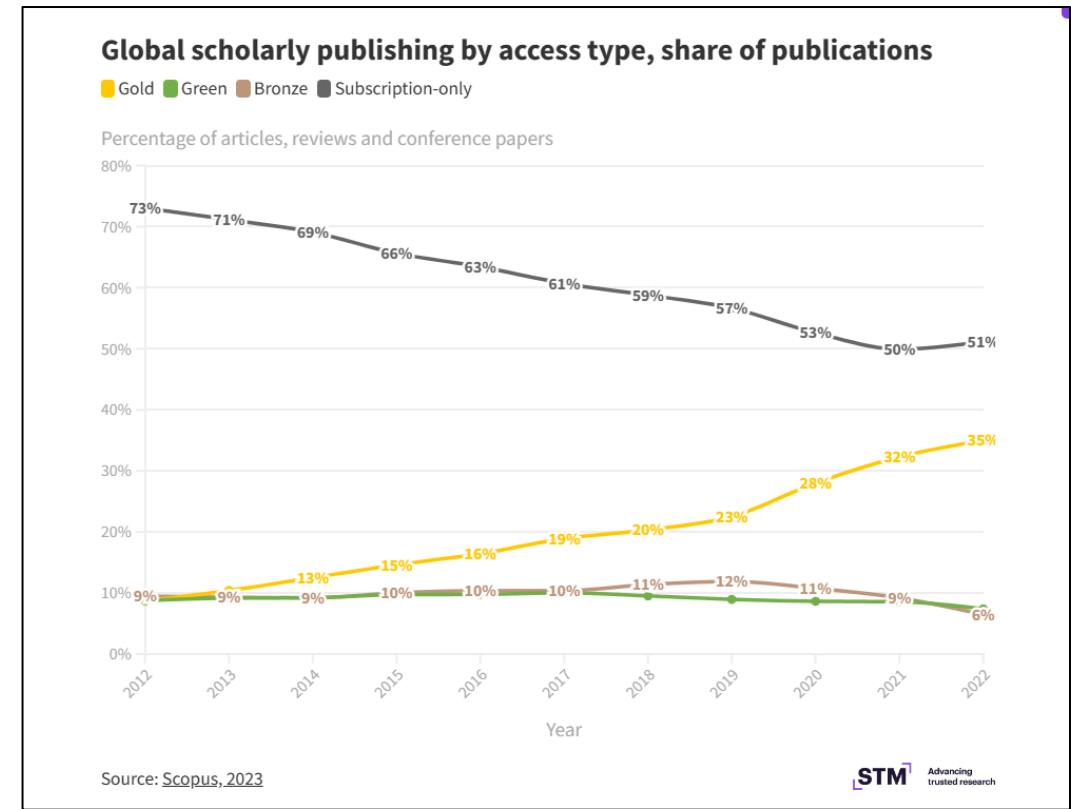
- ゴールド
- グリーン
- ブロンズ
- ゴールドとグリーン
- ブロンズとグリーン

OA化の現状（論文レベル）



購読のみ：184万本
グリーン：27万本

ゴールド：126万本
ブロンズ：23万本



購読のみ：51%
グリーン：7%

ゴールド：35%
ブロンズ：6%

STM OA Dashboard

<https://www.stm-assoc.org/oa-dashboard/>

OAのタイプ（ジャーナルレベル）

ハイブリッド	<ul style="list-style-type: none"> 購読ジャーナル OA論文出版料（APC）が支払われた論文のみがゴールドOA論文となる
ゴールド	<ul style="list-style-type: none"> 全ての論文は、著者によって、もしくは著者に代わって支払われるAPCにより、またはジャーナル全体のビジネスモデルによってゴールドとなる
ダイヤモンド／プラチナ	<ul style="list-style-type: none"> APCが無料のゴールド・ジャーナルは、ダイヤモンドやプラチナと呼ばれることもある

OAの財源モデル

OAの財源モデル（資金調達モデル）

マイクロペイメント (少額決済) 個別／集約

- OA論文出版料 (APC)
- 転換契約
- 純粋出版契約

集団行動／ 購読

- クラウドファンディング
- S2O: Subscribe To Open
(オープンを購読する)

補助（助成）

- ボランティア
- メンバーシップ
- 政府／NGO
- 慈善事業

マイクロペイメント（少額決済） 個別／集約

OA論文出版料（APC）

- 論文をオープンアクセスで出版するために課せられる料金
- 追加料金が発生する場合もあり（ページジャージ、カラージャージ、表紙、CCライセンス、投稿料など）

請求（支払い）モデル

- （著者に対する）個別請求
- 契約で集約
 - 転換契約
 - 純粋出版契約
- 割引と免除のプログラム

個別APCから集約APCへ

個別請求は管理上のオーバーヘッドが大きい

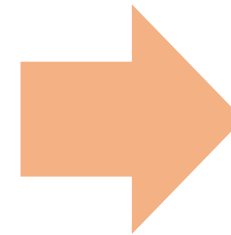
- 請求書発行
- 進捗管理
- 不良債権

支払いと出版の整合性が課題

- 支払い完了まで出版を遅らせると、学術研究が滞る
- 支払い前の出版は支払い意欲を削ぐ

いわゆる「野放しのAPC」

- 大学や機関は出版費の支出を把握するのが困難



転換契約

純粹出版契約

転換契約

図書館または図書館のグループから出版社に支払われる契約金を、購読ベースのアクセスからオープンアクセス出版へとシフトさせようとする契約

Read-and-Publish契約とは、

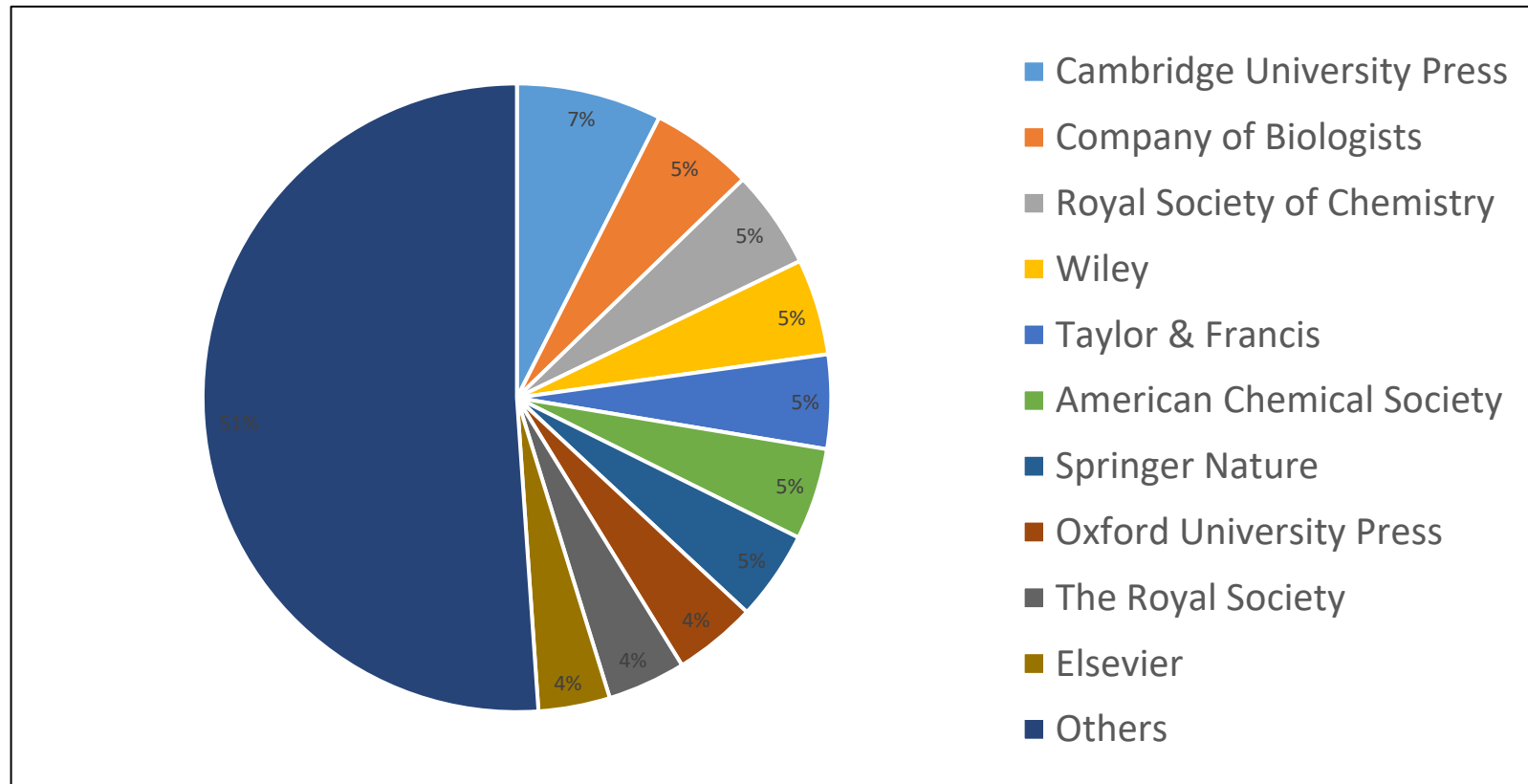
出版社が購読に対する対価と出版に対する対価を一つの契約にまとめて受け取る契約

Publish-and-Read契約とは、

出版社が出版の対価のみを受け取り、追加費用なしで購読も提供する契約

転換契約の実績（出版社毎）

世界で800件を超える契約

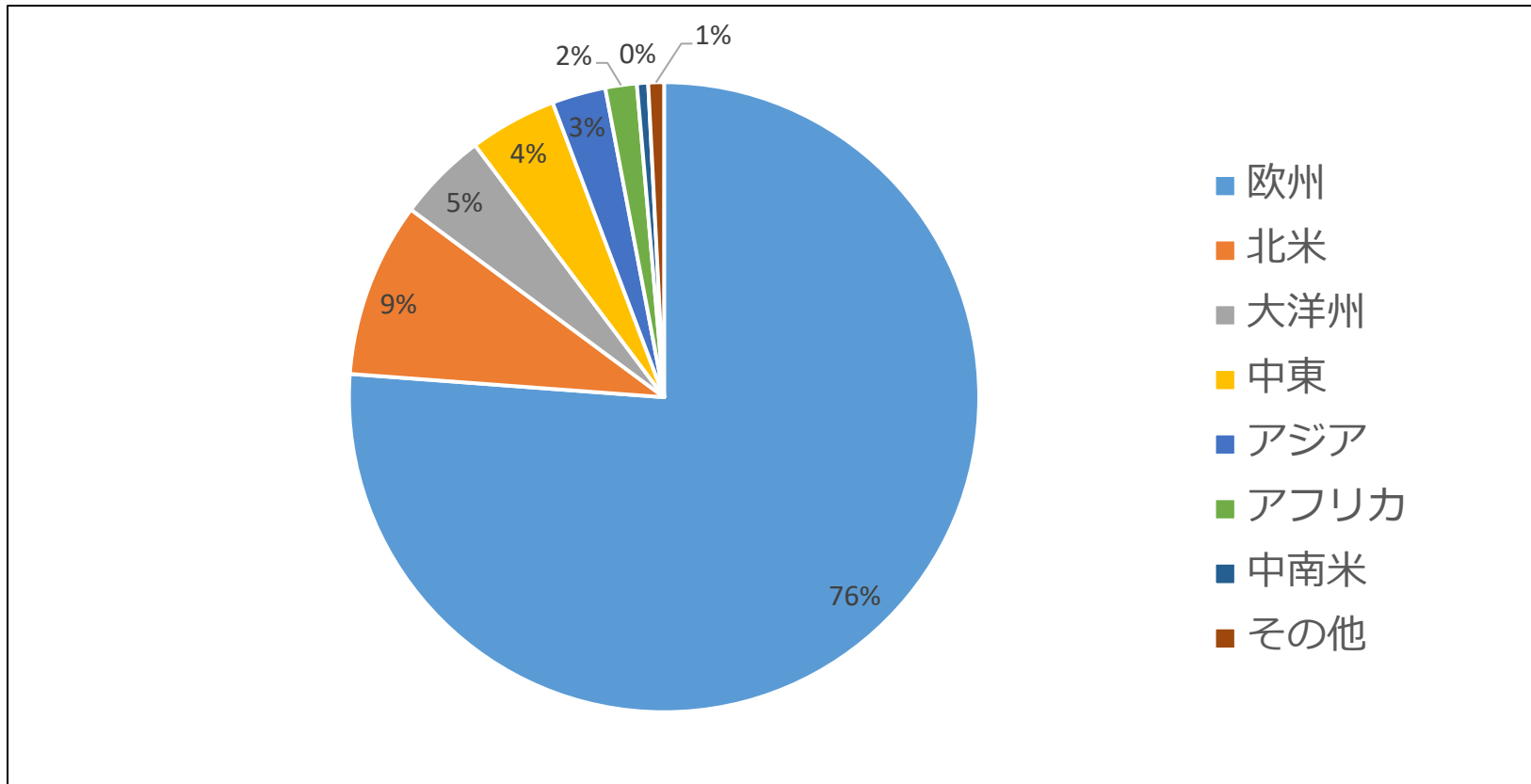


ESAC Registryのデータに基づき作成（2023年11月25日時点）

<https://esac-initiative.org/about/transformative-agreements/agreement-registry/>

転換契約の実績（地域毎）

世界で800を超える契約



ESAC Registryのデータに基づき作成（2023年11月25日時点）

<https://esac-initiative.org/about/transformative-agreements/agreement-registry/>

純粋出版契約

純粋出版契約とは、合意された支払いによって、その機関の全ての著者がゴールド・オープンアクセス・ジャーナル（完全なオープンアクセス・ジャーナル）で出版できる契約

事例：

PLOS/University of California

Frontiers/Duke University

集団行動／購読： クラウドファンディング

図書館や図書館コンソーシアムなどの団体が、資金を出し合うことにより、オープンアクセス出版を支援する方式

事例：

Knowledge Unlatched (Wiley)

<https://knowledgeunlatched.org/>

Open Access Community Investment Program (LYRASIS)

<https://www.lyrasis.org/content/Pages/oacip.aspx>

集団行動／購読： S2O: Subscribe To Open（オープンを購読する）

購読型のジャーナルをゴールドのオープンアクセス・ジャーナルに転換するためのモデル

- 購読ジャーナルであることが前提
- 期限日までに十分な数の購読機関が集まった場合、当該年度の出版論文は全て永続的にOAになる
- 集まらなかった場合、購読機関のユーザのみが当該年度の出版論文にアクセスできる

事例：

Annual Reviews などの170誌

S2O Community of Practice
<https://subscribetoopencommunity.org/>

補助／助成

ボランティア

- 研究者の集まりが、自分の時間と所属機関のリソースを使って、ジャーナル等をOA出版

メンバーシップ

- 会費を集めることにより、OA出版を実現

政府／NGO

- 出版以外の収入を出版物の資金に充てる
- 事例
 - U.S. Federal Government Monographs and Serials
 - UNESCO Digital Library
 - OCED iLibrary
 - Heritage Foundation Reports

慈善事業（寄附）

- 寄付金でオープンアクセス出版
- 事例
 - Gates Open Research（ゲイツ財団）
 - Arcadia Open Access Fund, MIT Press（アルカディア財団）
 - Communications of the American Mathematical Society（匿名の寄付者）

グリーンOAの財源モデル

- グリーンOAには独自の財源モデルはない
- 論文の記録のバージョン（VoR）の出版コストは、以下のいずれかの方法でまかなわれる：
 - 購読料、または
 - ゴールドOAの財源（APC等）
- グリーンOA論文のプラットフォームであるリポジトリは、機関などの組織の資金により運用

OAに関する最近の政策動向

Plan S / cOAlition S

- 2018年9月、欧州の複数の研究助成機関がcOAlition Sを結成
- 2021年1月から、完全にして即時のOAを実現するために、Plan Sと呼ばれる原則とガイドラインを公表

Plan Sの3ルート

1. OA出版（ジャーナルとプラットフォーム）	著者は、オープンアクセス・ジャーナルまたはオープンアクセス・プラットフォームで出版
2. 購読誌（リポジトリ）	著者は、購読誌に論文を発表し、記録のバージョンまたは受理原稿のいずれかをリポジトリでオープンに公開
3. 購読誌の転換（転換契約）	著者は、転換契約の下、購読誌でOA論文を出版

<https://www.coalition-s.org/>

『ネルソン・メモ（2022年8月）』

- 外部研究開発委託費を持つ全ての政府機関を対象
- 論文のメタデータとフルテキストへのパブリックアクセスを要求
- エンバーゴは認めない
- 論文に加えて、研究データも対象
- 各機関は、2024年12月31日までに最終方針を決定し、決定後1年以内に実施

内閣府総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）

『公的資金による学術論文等のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方（案） 令和5年10月19日』

- 2025年度から新たに公募する競争的研究費の受給者に対し、論文及び根拠データの学術雑誌への掲載後、即時に機関リポジトリ等に掲載することを義務付ける。
- 学術出版社に対する大学を主体とする集団交渉の体制構築を支援する。
- 大学等における機関リポジトリ等の価値向上、成果発信力の強化を行う。

→ エンバーゴなしのグリーンOA（米国CSTPと同じ）

→ オープンアクセスかパブリックアクセスか？（不明）

義務化の要件

- ゴールドおよび/またはグリーン・オープンアクセス？
- グリーンの場合は、記録のバージョンか、または受理原稿でもよいのか？
- オープンアクセスかパブリックアクセスか？
- CCライセンスの要件は？
- 著作権保持の要件は？
- エンバーゴは許容されるか、即時OAか？
- 研究データも対象か？

おわりに

～OAは目的ではなく手段～

OAの目的

“... accelerate research, enrich education, share the learning of the rich with the poor and the poor with the rich, make this literature as useful as it can be, and lay the foundation for uniting humanity in a common intellectual conversation and quest for knowledge.”

「... 研究を加速し、教育を豊かなものとし、富める者の学術を貧しき者と、貧しき者の学術を富める者と共有し、この文献を可能な限り有用なものとし、共有された知的会話と知識の探求を行う中で人類を一体化するための基盤を築く。」

Read the Declaration. The Budapest Open Access Initiative
<https://www.budapestopenaccessinitiative.org/read/>

OAは目的ではなく手段（BOAI20 より）

“We became increasingly clear that OA is not an end in itself, but a means to other ends, above all, to the equity, quality, usability, and sustainability of research. We must assess the growth of OA against the gains and losses for these further ends. We must pick strategies to grow OA that are consistent with these further ends and bring us steadily closer to their realization.”

「OAはそれ自体が目的ではなく、他の目的、とりわけ研究の公平性、質、有用性、持続可能性のための手段であることが次第に明らかになってきた。私たちは、これらの究極の目的に対する利益と損失を考慮に入れて、OAの成長を評価しなければならない。そして、これらの目的に合致し、その実現に着実に近づくようなOA化の戦略を選択しなければならない。」

`ojiro@unibiopress.org`

`https://www.unibiopress.org/`